

# 蒲郡市 リーディング プロジェクト

GAMAGORI leading project

ニュース  
レター  
vol.01



## これからのまちと 公共施設を考えよう！



### フォーラム

2022/11/5

1

これからのまちと  
公共施設を考えよう！

### ワークショップ

1

こんな蒲郡にしたいな  
不安と希望を分かち合おう

2

2023/1/21  
文化香る蒲郡の  
公共施設を考えよう！ -

2

2023/2/25  
ビジョンを描く  
- こんな施設がいいな

3

ビジョンを描く

4

使いこなしを  
想定してみよう

5

基本理念、  
基本方針を整理しよう

2023 秋 基本計画へ

蒲郡市では、図書館などの機能を兼ね備え、市民の居場所や活動拠点となるような場を蒲郡駅周辺に整備する「リーディングプロジェクト」を進めています。

新しい公共施設を描くには市民の声が必要です。そこで、市民フォーラムと連続ワークショップがはじまりました！

\*

2022年11月5日に、第1回のフォーラムとワークショップが開催されました。前半の市民フォーラムでは北原啓司先生（弘前大学特任教授）より八戸ポータルミュージアム「はっち」など、市民参加による公共施設の事例をご紹介いただきました。市長を交えたシンポジウムを経て、後半は市民・学生・専門家など約60人によるワークショップを行いました。

リーディングプロジェクトに対するたくさんの希望や不安を分かち合い、熱気にあふれた回となりました。

# 当日の流れ

## 1 市長からの呼びかけ



「市民の皆さんでまちづくりを」との市長からの呼びかけではじまりました。

## 2 北原先生の基調講演



「「空間」を「場所」にするまち育て」と題して北原先生よりご講演いただきました。

## 3 座談会



北原先生の話を受けて、恒川先生（名古屋大学）、益尾先生（愛知工業大学）、市長を交えて蒲郡でも応用したい点について話し合いました。

## 4 グループで自己紹介



休憩後グループに分かれ、各自基調講演での気づきを発表しながら、自己紹介をしました。

## 5 希望と不安の葉っぱ



各自が新しい公共施設についての希望と不安を考え、葉っぱ型のカードに記入しました。

## 6 グループ共有



カードに書いた内容を各自発表し、グループの中で共有しました。

## 7 希望の木・不安の木



希望と不安の葉っぱを模造紙に描かれた木に貼り付け、希望の木と不安の木が完成しました。

## 8 全体共有



最後に6グループが集まり、全体で共有しました。

## 基調講演

# 「空間」を「場所」にするまち育て

北原啓司先生（弘前大学特任教授）

北原先生が携わってきた市民参加による公共施設づくりについて、プロセスを詳しくお話しいただきました。

### 事例A

#### 中心市街地活性化を目的とした拠点施設と市民参加（青森県八戸市）

八戸市は15年以上の中心市街地活性化の活動の中で、多様な市民参加の機会を設け、公共施設に限らない市民の「場所」が創出され、多様な人を巻き込む現在進行形の取組を行っている。

##### ① 地域観光交流施設・八戸市ポータルミュージアム「はっち」

「都心地区再生市民ワークショップ」(2004年～)を皮切りに、計画から運営に至るまで市民が関わりつづけている。2006年に基本構想が立てられ2011年2月に開館。市の直営施設であり、会所場づくり・貸館事業・自主事業の事業がある。



##### ② 八戸まちなか広場「マチニワ」



「はっち」の向かいの商業ビル閉鎖跡に2018年7月に誕生した「マチニワ」の整備にあたっては、活用検討市民ワークショップが6回にわたって行われた。

### 事例B

#### 青森市佃気象台跡地公園計画「つくだウェーザーパーク」

青森市立佃小学校の児童、PTA、町内会関係者、商店街関係者、障がい者、商工会、専門家等が集まり15回のワークショップを行った。対立から創造が生まれる場面が複数あった。その一例は、子どもが「遊具を我慢するから、、、」と大人に交渉するなど、相手を理解しつつ自分のアイデアを強化する場面であった。



「空間」に人々の想いと、活き活きとした活動が加わると、

そこは、「場所」に変わります。



私が私のために、みんながみんなのために、「公共」を考える機会として、今日のワークショップが始まります。施設への要望ではなく、どういう場所で誰と楽しみたいのか、といった、物語の提案者になりましょう！それは半ば妄想的！？かもしれません、何度も重ねていくことで、現実になっていきます。

POINT!

#### ワークショップの醍醐味

- ①自分と違う意見を聞くことを楽しむ
- ②他の人に聞いてもらい歩み寄る
- ③思ってもみなかった案が生まれる

POINT!

#### オープン前から私たちの「場所」

「はっち」では建物が完成したら「どう使うか」を市民たちがたくさん話し合ってきたことで、開館後も活き活きした状況が生まれています。みなさんもこれからつくる「空間」の関係人口として、「場所」に育していくことを楽しみましょう。

POINT!

#### 子どもに学ぶ

#### 「だって“私たちの場所だもん”」

公園づくりのワークショップである子どもがゴミは持ち帰ればよいと言って、結果的にゴミ箱の設置をやめました。その後輩たちが学校の敷地でもないのに掃除をしていました。「だって“私たちの場所だもん”」。こんな言葉を言ってみたいですね。

# 希望の木

「希望の木・不安の木」に寄せられたつぶやき集です  
グループワークでは、リーディングプロジェクトや、今後についての希望と不安を分かち合いました。6グループに分かれて意見を出し合い、グループごとに「希望の木・不安の木」をつくりました。  
本通信では、すべての話題を網羅して紹介できるように、全体で整理して掲載しています。

## 多様な人が交流できる居場所

- ・世代、障がい、収入格差などを超えて、誰もが集まり、交流し、時間を過ごせる場所があるとよい。
- ・ほかの地域の人たちとつながり、一緒に何かできる場所があるとよい。
- ・子育てをするお母さんたちが交流できる場所。
- ・移住してきた人が住みやすいまちになってほしい。
- ・高齢者と子ども、どちらも集まるる場所。
- ・そこに行くと誰かがいて、心温まる何かがある場所。
- ・リタイア後の世代と子育て世代の交流が仕掛けられる場所となるとよい(運営が大事)。
- ・高校生や大学生など若者と一緒に活動(ボランティア)できる場所。
- ・視力聴力の弱った人も楽しめる場所。
- ・足腰の弱った方が歩いていきやすい(足の不自由な方も)場所。
- ・新たな“市民の交流の場”となる場所。
- ・全年齢・市民全員が喜んで利用できる。
- ・外国人と日本人が交流できる場所。
- ・高齢者や障がい者など、普段あまり関わりのない人とも、共有できる場所。多様な人同士が交流する(交わる)ことが自然と行われるようになつたらよい。
- ・各施設の職員さんとみんなお友達になれたら楽しそう。
- ・図書館などは現在は既存客が多い。若年層の利用機会が増えているとよい。

## 「共創」や「生きがい」がある場

- ・「共創」をコンセプトとした、“学校”が中心となるまちになるとよい。
- ・蒲郡の学びの拠点「蒲郡市民大学」。
- ・市民が主役の市民がクリエイティブを生み出せる場所。
- ・アートやクリエイティブなイベントで若者やクリエイターが活躍でき、住んでいて楽しいまち。
- ・ペアレントトレーニングを発達障がいのあるお子さんがいない人も学べるようになればよい社会になるのかもしれない。
- ・誰でも挑戦しやすいまち。
- ・小さいお店で小さく始める仕事があるとよい。
- ・広い世界に羽ばたき、様々な分野の知識と見聞を得て、いつの日かUTURNしたくなるような蒲郡。
- ・蒲郡の魅力に惹かれて移住したくなるようなまちのひとつのプロジェクトになること。
- ・生き物と触れ合うことができる場所がほしい。そこに学生の知識を活かしたシステムが入るとよい。
- ・ものづくりが出来るラボがあるとよい。
- ・みんなが使える図工室のような場所。
- ・自然是文理融合の素晴らしい切り口。ローカルに、蒲郡ならではの新しい分野が生まれたり、切り口が現れたりできるかもしれない。
- ・学校が終わった後、子どもたちが打ち込める場所があるとよい。(習い事ではなく、大学のサークル活動なイメージ)
- ・「やさしい」「誰でも」だけでなく、「面白さ(ユーモア)」も、それなりにほしい。

## 子育てしやすいまちに

- ・雨の日でも真夏でも遊べる子育て施設。
- ・数十年後の蒲郡が明るく活気に満ちたまちになれるように、次世代を担う子どもたちが誇りを持つことのできる魅力ある素敵な場所。
- ・子どもも大人も「夢」を持てるまち。
- ・子どものはしゃぐ声が絶えず聞こえる場所。
- ・市民全体で子どもを見守る目のあるまち。
- ・子どもに優しく、親子で安心して暮らせるまち。
- ・蒲郡に生まれてよかったと思えるところ。
- ・市内の中に子ども食堂が多くできるとよい。
- ・駅前の便利な場所に、中高生の学習環境を充実させたい。(駅前だとお迎えに安全便利、他市の学生利用も促し、蒲郡を好きになってもらう)
- ・蒲郡生まれの子供がわくわくする場所があるとよい。走り回ったり、触ったり、寝転がったりする遊び場。
- ・子どもが1人でも安心して遊びに行ける場所ができるとよい。
- ・子供のがのびのび遊べる室内遊園地が欲しい。

## 無目的にふらっと寄れる居場所

- ・まちに居場所ができる、いつでも気軽にいることができる場所。
- ・ゆとりあるハードとソフトを備えてほしい。
- ・24時間利用できるとよい。ゆっくりできるとよい。
- ・敷居が低く暇つぶしやふと立ち寄っただけでも利用できるとよい。
- ・みんなが当たり前に、気兼ねなくおしゃべりできる空間があるとよい。
- ・学生が安らげて楽しめる場所が欲しい。
- ・世代を越えて集えて、ゆるいけどそこに行けば何かあるという期待できる場所。
- ・とりあえず駅前に行けば何でもできる期待感が持てる場所。
- ・まちの人が気軽に集まれる場所。モーニングしたり。夜ご飯を食べたり、歌をうたったり、読み聞かせをできるとよい。
- ・夏の暑い日に涼みに行けるスペース、冬の寒い日に温まるスペースがあるとよい。
- ・「とりあえず暇だからガッマに行くか！」という場所になることを期待。

## 観光客の拠点として

- ・駅を降りてすぐにまちの顔となる場所、蒲郡のまちのロビー。
- ・観光客のための拠点。
- ・観光目当てにもなるような施設になればgood。(蒲郡の今までの施設は常に最先端だった。これからも先を行く施設にしてほしい。それも誇りである。)
- ・1人旅の楽園を目指す。地元の人と交流できる場所があると楽しい。旅人のたまり場。
- ・観光などで市外から蒲郡を訪れる人たちと市民の交流が深まる場が増えるとよい。

## 充実した機能

<日常>

- ・運動する意識がなくても無意識に動けてしまうような場所。
- ・お昼ご飯も食べられる児童館があればよい。
- ・行政手続きが行えるとよい。
- ・カフェやコンビニなどが欲しい。

<学び・遊び>

- ・「遊び」と「創作」の場を作りたい。(限定されることなく、個々の創造や探求を認めあい、応援する場所)
- ・様々な目的で利用できる場所になってほしい。(会議室→遊び場→勉強の場等々)
- ・オシャレな図書館があったらよい。
- ・1人で長時間いられる場所が欲しい。飲食もおしゃべりも可の図書館。福井県の「TSURUGA BOOKS&COMMONS ちえなみき」のような場所。

<文化・音楽>

- ・文化の中心。特に音楽のまちが実現できる施設。
- ・オーケストラ、吹奏楽の発展になる施設。安価で市民が演奏したり、有名な楽団の演奏会が聴けたらよい。
- ・高校生が遊べる場所が欲しい。テニスコートとか、映画館とか。
- ・聴ける施設。幸田町のワンコイン演奏会などを参考にしてはどうか。
- ・海を観ながら、音楽を聴いて、ビールが飲める大人の空間がほしい。
- ・常設型のイベントステージが欲しい。(幸田町のハピネスヒルのような)

## 安全・防災

- ・「安全」「もしもの時」の安心の場、避難所としての役割。
- ・防災や交通安全について学べる場所。

## 蒲郡の誇りを育みたい

- ・綺麗な山並みとともに見る夕日が美しいと思った印象がある。そういった美しい景観を活かしたまちづくりがしたい。
- ・海沿いにあることを活かしたデザインの施設になるとよい。
- ・蒲郡は自然が豊か。コア施設ができることで身近な自然へ誘うことができれば今後も自然体験豊かな市民が共に育つのではないか。
- ・猫に会いたい。かわいい。
- ・蒲郡の土地で育てた野菜を蒲郡の人が買えることができる場所。
- ・ほかのまちではできないような活動ができる場所がほしい。そこから蒲郡ブランド的なものができるとよい。
- ・市民が蒲郡のよいところを再認識できる場所。市外の人に対しても蒲郡のよいところをアピールできる場所となってほしい。
- ・他の市町村がうらやむような歴史が積み上がる場所にしたい。
- ・地域の子どもが、地元を知ることができる企画が欲しい。
- ・町内会で交流できる場所 ・530運動 ・防災訓練

## 情報拠点として

- ・いつでもふらっと立ち寄れるまちの出会いの場であり、情報が集まる場所。
- ・蒲郡をPRできるものやサービスにアクセスできる場があるとよい。
- ・ネット上の情報(イベント、活動公開、不用品の再利用など)を体験できる場所。

## 周辺環境

- ・既存の施設やもともとあるその場所の良さを使いこなせる施設だといい。
- ・博物館などの現状の公共施設を結ぶような場所にあるとよい。1回行けばいいやではない。
- ・海沿い、山道のサイクリングロードが整備されるとよい。
- ・駅前のシャッター街を減らしたい。活気がなくてさみしい。
- ・自立つ空き家を活用したい。
- ・駅前の昔っぽい名残を活かした場所。「蒲郡っぽいね」と言われるものを残したい。そのままが良い味もある。
- ・レトロな蒲郡「も」景観として大切に残していくとよい。変わる蒲郡、変わらぬ蒲郡。
- ・「北駅側がわいわいしているぞ」「なにか変わったぞ」と感じさせるものが欲しい。
- ・東港の開発について 例えは道の駅・海の駅をつくる。
- ・東港の開発について イベントをどんどんやる。(うどんサミット・くらふとフェア等)
- ・海を生かした(景観に配慮した)防災計画にしてほしい。

## 柔軟な運営

- ・新たなランドマークとして未知の体験が可能で、行政の立場では予想できない利用の仕方がされるといい。
- ・規則や制限の少ない施設がよい。現在は、公園グラウンドもできないことや禁止事項が多い。
- ・公共施設と聞くと「お堅い」イメージがある。緩さがなく、敬遠してしまうかもしれない。
- ・PRをうまくしてほしい。(運営が大事)

## アクセス

- ・レンタル自転車に優しいサイクルスポットがあるとよい。
- ・くるりんバスを利用してアクセスをよくしてほしい。
- ・アクセスしやすい図書館がほしい。
- ・フェリーで渥美半島や知多半島の先端に観光で行けるようになるとよい。

# 不安の木

## まち全体の課題

- ・蒲郡は外から入りづらい感じがする。
- ・若者が市外に働きに出てしまっている。
- ・家を建てる場所がなく、幸田町に流出している。
- ・公園に誰もいないため、つまらない。
- ・耕作放棄地が増えている。
- ・人口の減少が起きている。人口や年齢構成の比率はどう変化しているか。
- ・蒲郡の魅力を知らずに子どもたちが育ってしまうことが心配。
- ・防災施設等で景観を損ねないか心配。
- ・津波への対策が不安。
- ・働く場所が少ない。
- ・面白い仕事・企業が少ない。
- ・発達障がいの人の居場所がない。
- ・野球やスケボ、ローラースケートなどができる公園がない。
- ・相談できる人や場所が少ない。
- ・美術館や文化的なイベントがない。映画館もない。
- ・空き家が増え続けていることが不安。
- ・高齢者の居場所が少ない。
- ・人口の減少が心配。
- ・駅前に大衆食堂のような昼から飲める場所がない。

## 連携ができるか

- ・関心のある人との温度差、声の大きい人と小さい人の差を解消していくのか不安。
- ・一部の人だけで考え、決めてしまうことにならないだろうか。
- ・蒲郡市のほかの施設との連携はとっていくことができるのか。
- ・年齢を超えた地域の人たちとのつながりや、さまざまな団体とのつながりは生まれるのだろうか。
- ・蒲郡の文化とのつながりや連携もできるのだろうか。
- ・民間とのコラボを期待したいが、誘致できるのか。(BE KOBEなど)
- ・(行政の立場から) 地域に知り合いがあまりいない。昔の地縁のようなものではないが、色々な人の関わりが欲しい。
- ・まちづくりへの住民間の熱意の温度はどうするのか。
- ・少子化の影響もあって、新型コロナウイルスと関係なく同年代の人と話す機会が少なくなってきた。

## 居場所になるのか

- ・「空間」を「場所」にできるのか。居心地のよい場所になるのか。
- ・当事者意識の低下による社会参画者が減少していくかもしれない。
- ・従来通りのハコモノだけができて終わるかもしれない。
- ・人が来ないかもしれない。
- ・中途半端になって魅力的でないものができるかもしれない。
- ・熱意はあっても、それだけでは事業自体が潰れてしまうのではないか。
- ・画一的な開発によって他と同じようなまちになってしまかもしれない。
- ・静かな場所とおしゃべりができる場所の棲み分けができるのか。

## 柔軟な運営は可能か

- ・外国人が集まつたら「うるさい」と言われることもある。
- ・日本語がわからない人は行きづらいかもしれない。
- ・行政が管理運営をするいわゆる公共施設になってほしくない。(例えば平日の17時で閉館ではなく市民の力を活かして長い時間使えるようにしたい)
- ・規制の少ない運営ができるのか。市民が成熟している必要があるのではないか。
- ・現在の公共施設の部屋貸しルールが厳しく利用しづらい。
- ・行政の発想が固くて対応できるのか。
- ・時代の変化が激しく、50年後を考えるのは難しい。融通が効いた方がよい。
- ・今までと違う新しい施設を求めるあまり、かえってそれぞれの柱の機能が使いにくくなってしまわないか不安。
- ・行政としてこれまでの運用とがらっと変わることが不安。

## リスクマネジメント

- ・宗教の勧誘などがあつてほしくない。
- ・不良やホームレスの人たちのたまり場になってほしくない。
- ・イベントを行うと苦情を漏らす人がいるので、それを未然に防ぐための対策を行つてほしい。
- ・防犯対策をしっかり行って安心安全なまちとなつてほしい。
- ・「海の蒲郡」のシンボルとなる場所としたいが、安全性と両立できるのか。

## 周辺への影響

- ・全市民が駅周辺に一極集中してしまうかもしれない。
- ・駅周辺との関係性はどうなるのか。
- ・「商業」と「いこい」は両立できるのか。
- ・周辺の地区の人々の生活が治安面、衛生面などで悪化する危険がある。

## 情報発信

- ・イベントなどの市民への周知・広報を行つてほしい。
- ・市民のアンテナとなる施設づくりをしてほしい。
- ・外国人の子供は言葉がわからないため、敷居を低くして図書館の多言語化のような対応が望まれる。

## 元の施設はどうなるのか

- ・既存の施設が壊されると、もともとの施設を気に入っている人が納得できるような場所はできるのだろうか。
- ・今あるほかの施設がいらないものとなつてしまふことはないだろうか。

## 財政

- ・広さや規模感はどのくらいなのか。
- ・市の財政を圧迫しないのか。
- ・ハードができてもソフト（運営費）はどうなるか。
- ・50年使い続けるためには、長く維持管理（メンテナンス）できる施設にしていかないといけない。
- ・新しい施設をつくつて将来無駄にならないのか。50年後も使い続けられる施設とはどのようなものか。

## 立地とアクセス

- ・いつどこにどのようなものができるのかわからない。
- ・駐車場はどうなるのか。
- ・車は必須なのか。バスは整備されるのか。
- ・何をするにも駅前に行かなければならないかもしれない。
- ・現状としては西浦から市民病院は遠い。複合施設の立地は検討してもよい。
- ・徒歩圏内ではないが、小中学生が訪れることができるか。

## 学校について

- ・学校の先生の質の低下が起きていないか。
- ・小学校の部活が廃止されたが、放課後子どもたちは何をして遊んでいるのか。

## その他

- ・手作り野菜が定着しないのではないか。つくる人・食べる人をつなげられるのか。
- ・蒲郡高校の近くは昼間もバイクがうるさくて怖い。
- ・公園に景観に合わないような遊具が勝手に増えてしまっているのはなぜか。どういうプロセス（意思決定）の結果、遊具が設置されることになったのか。

# さいごに



高野先生



北原先生

「だって“私たちの場所だもん”といえるような公共施設を、50年後の世代のために、今私たちで考えていきましょう。」



恒川先生

基調講演では、公共空間がたくさんの物語の蓄積でできていることにたいへん感動しました。ワークショップでは皆さんが楽しそうに参加されていて、特に若い人たちが積極的に意見を出していたことが頼もしく、印象的でした。

今日の発言は、希望も不安も全てが宝物です。

- ①希望のフレーズをたくさん溜めていこう！
- ②不安の発言は未来をつくるヒントとしてとても大事です。
- ③自分を大事にしてくれる場所をつくっていきましょう。
- ④すべての人が納得することはあり得ませんが、時には対立を恐れず対話を重ね、「みんなが来ても大丈夫な場所」にしていきましょう。

## 参加者より(一部)

### ①基調講演で印象に残ったこと（気づきカードより）

- ・みんなこんなまちにしたい！という熱意を聞けたこと。すごく楽しかった！
- ・「私たちの場所だもん」…「私たち」と感じられるために、安心安全と感じられる場があることと、安心安全を感じられる人と過ごせること。
- ・子どもたちをワークショップに入れるとよい効果がある。
- ・ワークショップは意見をまとめるためにやるものではない。自分が思ってもいらない考え方を楽しむ。（びっくりする！ワクワクした）

### ②ワークショップに参加して

- ・ワークショップから公園ができるまでのストーリーが本当に面白く、参考になった。
- ・皆さんのが能動的に積極的に発言されることが素晴らしいと思った。
- ・自分の思ってもいらない意見を持っている方もいて、みんなで進めるのはよいと感じた。
- ・高校生自らがよかったです。もっと学生参加してほしい！
- ・グループ内での「自然や文化といった蒲郡の特色をより強く出して行ったほうがよい」という言葉が印象的でした。

### ③運営全般について

- ・年齢層を広げてほしい。中学生にも参加してもらいたい。
- ・ワークショップの時間をもう少し長くしたほうがよいと思う。
- ・次回も楽しみにしています。

## 私たちが企画しています！

### デザイン会議

外部有識者で組織し、コンセプトや基本構想・基本計画の内容検討を行っています。

積極的に市民意見を取り入れるために、フォーラムや市民ワークショップを企画・運営しています。

恒川和久／高野雅夫／安井秀夫／益尾孝祐／平賀研也／名畠恵

蒲郡市リーディングプロジェクトニュースレター vol.1

発行日：令和5年1月

発行：蒲都市公共施設マネジメント課

T E L (0533) 66-1214 / F A X (0533) 66-1183 / e-mail : k-mane@city.gamagori.lg.jp

協力：NPO 法人まちの縁側育くみ隊